庭園 協会ニュース 第97号

一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田 1-6-3 フェリオ西早稲田 301
〒 169-0051　TEL:03-3204-0595（FAX 兼用）
E-mail : gsj20@m7.dion.ne.jp　URL : http://nitteikyou.org/

編集者：広報委員長・柴田 正文
委員・小沼 康子、内田 均、鈴木貴博、豊藏 均
題　字：故・上原 敬二
発行日：2019 年（令和元年）7 月 31 日

成田山新勝寺庭園　雄飛の滝

庭をつくる人と味わう人

小沼 康子

創立百周年記念事業を機に読み返した機関誌『庭園』によって、創立期の先人達の熱き想いに触れることができた。『庭園』は、１９１９年（大正８年）年７月号を創刊とし、翌年から１９４４年（昭和19年）年３月まで、ほぼ毎月、全26巻３０９号が発行された。掲載記事数は、年１００件前後で総記事数２，９５１件である。現在のようにＰＣなど無い時代、毎月の編集作業を考えただけでも尊敬の念を覚えずにはいられない。

記事の内容は、住宅や庭をはじめ、名園、公園、園芸、森林風致、設計・施工、材料等、さらに庭園探訪、海外視察報告など幅広い。執筆者は、田村剛、井下清、龍居松之助、後藤朝太郎、黒田朋信、本多静六、中島卯三郎はじめ、多様な分野の方々が寄稿している。女性も少なくない。初期には、上原静子（敬二夫人）、有川ヒサエ（園芸教育）、中期以降は末田ます（東京市職員）、角田鶴子（東京高等造園学校講師）、龍居道子（松之助夫人）、本多いく子（静六夫人）、井下たか子（清夫人）、保岡愛子（勝也夫人）等女性技術者や発足世話人夫人たちも、それぞれの立場から、造園や庭園について語っている。

特に夫人たちが寄せる生活者の立場からの意見や感想は興味深い。龍居道子は、素人の意見とことわりつつも、「建物と調和した庭園」にその美を感じるといい、好きな庭園をあげ、その特徴と美を生む技巧にも目を向けて、「専門家に一任する人まかせ的な考えより、主人なり主婦自身の趣味を基に個性の現れた庭」の考案を求めている。本多静子は、新築間もない自邸の庭を紹介している。「崖上に位置する敷地の立地特性を生かし、隣地別荘の森を借景して、空間の広がりを得ている我が家の庭は理想的である」と言う。保岡愛子を中心とするグループは、「お庭廻り」と題する記事を連載している。定期的に開催される庭園見学の探訪記で、庭園の特長や歴史、かかわった人物にふれ知見を広げ、さらに趣味の俳句が添えられている。豊かな感性をもって、ゆったりと探訪を楽しむ姿がうかがえる。

これらのことから、初期の庭園協会は、あらゆる立場の人々の開かれた団体であったことがわかる。専門家は「つくる」技術・研究の研鑽に励み、一方、女性たちは「味わう」作法を追究していた。庭をつくる人と味わう人が並存する構造は、１００年前から今日まで続く本会の特長である。この両輪のバランスこそがこれからの本会を支える力であると考える。（理事）

平成31年度

一般社団法人

日本庭園協会定期総会開く

平成31年3月15日　東京代々木・フォレストテラス明治神宮

一般社団法人日本庭園協会は、平成31年3月15日（金）東京・代々木のフォレストテラス明治神宮で、午前10時半から全国評議員会、午後1時から総会を開催した。

【全国評議員会】午前10時30分。楠の間

司会＝柴田正文常務理事

評議員48名中、出席23名。菊地正樹副会長の開会の辞、高橋康夫会長が挨拶に続き、議長として議事進行。第一号議案「平成30年度事業報告、収支決算、会計監査報告」、第二号議案「平成31年度事業計画、事業予算」、第三号議案「創立百周年記念事業報告」、東日本大震災復興記念庭園開園式典、清澄庭園連続講演会、浅草寺本坊「伝法院庭園」修復基礎研修の件、当協会で取り扱う個人情報の取り扱い方針について、など積極的な議論が交わされ、総会において一括審議を諮るという事で可決。

【総会】午後1時。椎の間

司会＝柴田正文常務理事

正会員　出席者74名（委任状出席248名）で定款第十九条により成立。菊地正樹副会長の開会の辞、高橋康夫会長の挨拶、龍居竹之介名誉会長の挨拶の後、会長が議長席に着き議事録作成者に加藤精一総務委員長、議事録署名者に福田光子理事、高橋良仁理事を指名、議事にはいる。

○第一号議案「平成30年度事業報告、収支報告、会計監査報告の件」

事業報告＝各委員長

決算報告＝加藤新一郎財務委員長

監査報告＝中村寛監事

1　現状（平成30年2月24日現在）

(1)事務所…〒169―0051

東京都新宿区西早稲田1―6―3

フェリオ西早稲田301号

電話…03（3204）0595

URL http://nitteikyou.org/

E-Mail gsj20@m7.dion.ne.jp

(2)会員数　正会員517名（＋20）

特別会員／名誉会員10名（＋0）

維持会員11社（＋3）

学生会員1名（－1）

総会員数539名（＋22）

※カッコ内の数字は前年比

(3)本部委員会および特別委員会（カッコ内は委員長）、支部組織

①本部委員会／総務委員会（加藤精一）財務委員会（加藤新一郎）広報委員会（柴田正文）鑑賞研究委員会（藤枝修子）技術委員会（廣瀬慶寛）国際活動委員会（三橋一夫）

②特別委員会／文化財指定庭園調査委員会（高橋康夫）日本庭園協会賞選考委員会（高橋良仁）日本庭園協会百周年記念事業実行委員会（高橋康夫）創立百周年記念誌出版委員会（柴田正文）

③支部（カッコ内は支部長）

北海道南支部（桃井雅彦）宮城県支部（菊地正樹）栃木県支部（清水一樹）茨城県支部（飛田幸男）埼玉県支部（石井国義）千葉県支部（村田義雄）東京都支部（加藤精一）神奈川県支部（清水哲也）新潟県支部（若杉松男）石川県支部（向川茂）静岡県支部（石井敬明）愛知県支部（高見紀雄）近畿支部（山田拓広）岡山県支部（三宅秀俊）広島県支部（藤原忍）鳥取県支部（石亀靖）島根県支部（岡和生）山口県支部（殿井正敏）四国支部（越智將人）

2　事業の概要

【本部事業】

(1)総務事業　①全国支部長連絡協議会（2・10）②（一社）日本庭園協会定期総会（3・16）③常務理事会（1・25）（2・26）（3・8）（3・30）（4・16）（6・15）（7・12）（8・20）（9・25）（10・15）（11・10）（12・7）④理事会（2・26）（12・7）⑤創立百周年事業　推進・運営

(2)鑑賞研究事業　①講演会（東京都支部共催）「わが師飯田十基と親方学」石正園代表 平井孝幸氏（4・15）日本女子大学桜楓2号館②初夏の一日見学会「小田原の庭園と会員作品を巡る」（神奈川県支部長 清水哲也氏ご協力）（7・1）③秋の一泊見学会「重森千青先生とめぐる京都和モダンの庭」講師 重森千青氏（11・8～9）④創立百周年記念誌編集委員会参加⑤創立百周年記念行事の準備、記念講演会、記念式典、祝賀会など参加

(3)技術事業　①創立百周年記念事業清澄庭園再評価プロジェクト連続講演会（H29・7・2）（1・14）

総会に先立って開かれた全国評議員会

（1・21）（2・3）（3・30）（4・10）②修復基礎研修 国指定名勝庭園・浅草寺本坊「伝法院庭園」修復（7・3～5）③伝統庭園技塾 東日本大震災復興記念築庭事業（5・15～17）庭園開園式（5・18）④第10回庭園技術連続基礎講座（4・29）（5・27）（6・24）（7・29）（8・26）⑤みんなの緑学（1・20）（8・18）（9・22）（10・21）（11・10）

(4)広報事業　①庭園協会ニュース91～94号発行②GSJミニニュース61～68発行③広報委員に鈴木貴博と豊藏均の2名を迎える④創立百周年記念誌出版委員会開催（第11回～第19回）④東日本大震災復興記念庭園小冊子（5・18刊行）（10・19増刷）⑤記念誌「これまでの百年 そしてこれから」（10・21刊行）

(5)国際活動委員会　①国土交通省「海外日本庭園プロジェクト」国内打合せ（2・26）（5・11）（6・10）（6・25）（9・6）（10・30）（12・21）シカゴ現地視察・調査・打合せ（7・8～12）三橋②ポートランド日本庭園セミナー参加・指導（9・20～27）本川③北米日本庭園協会ポートランド大会に参加・復興記念庭園に関する講演（9・29～10・4）横山、八木沢

【支部事業】

〈北海道南支部〉

(1)会議の開催　①支部総会・新年懇親会（1・11）②役員会（3・28）（9・19）（12・10）③復興記念庭園開園式参加（5・18）④講演会 講師廣瀬慶寛氏 竹田利光氏⑤百周年記念式典参加（10・21）

(2)技術事業　①石積講習会（10・12～14）桃井造園内

〈宮城県支部〉

(1)会議の開催　①通常総会・新年会（1・8）②技塾・庭園開園式関係者事前会議（5・12）庭正庭芸研究所内③復興記念庭園開園式（5・18）覚照寺

(2)技術事業　①伝統庭園技塾準備作業（3・25）（4・8～30）（5・3～5）②伝統庭園技塾（5・15～17）覚照寺③復興記念庭園整備作業（6・24）（8・14）（10・8）覚照寺

〈栃木県支部〉

※本年度より清水一樹氏が支部長に就任、支部活動は休止状態、再開を模索中

〈茨城県支部〉

(1)会議の開催　①石積打合せ・新年会（1・20）②評議員会・総会（3・16）③支部総会（4・25）

(2)技術事業　①石積講習会（4・8～9）大平造園土木資材置場②新潟の庭視察研修（台風の為中止）③向上庵茶会出席（11・25）飛田・尾見

〈埼玉県支部〉

(1)会議の開催　①総会・新年会（1・28）②役員会（1・17）（2・6、13）（3・2、19）（4・6、16、26）（5・19、29）（6・8、12、25）（12・4）③復興記念庭園開園式（5・18）

(2)技術事業　①宝船展展示（1・9～13）県立近代美術館②シンポジウム打合せ（2・22）（3・3）県立近代美術館③さぎやまの現場展片付け（3・6）④第1～5回研修会（3・11）（3・24）（4・1）（6・2～3、17）⑤研修旅行（9・30～10・2）大分・熊本④作品発表会（12・9）伊勢丹浦和店

〈千葉県支部〉

(1)会議の開催　①支部総会（5・13）②役員会（4・14）（5・9）（6・1）（9・28）（10・28）（11・27）③親睦会（8・26）

(2)技術事業　①見学会 護国寺茶庭上野氏庭園作品（6・20）

〈東京都支部〉

(1)会議の開催　①新年会（1・24）②幹事会（1・24）（2・4）（3・4）（6・6）（8・23）（12・7）③支部総会（4・15）④納会（11・19）⑤「連続交歓講座」打合せを都度実施

(2)技術事業　①連続交歓講座第1回講師高野義武氏（2・11）日比谷コンベンションホール②鑑賞研究会共催講演会（4・15）③連続交歓講座第2回 講師 金田正夫氏（7・8）清澄庭園大正記念館④王塀・桂垣実践講習会（9・1～2）町田市簗田寺

〈神奈川県支部〉

小田原総世寺裏庭において5ヶ年計画で作庭を計画、実行中。現在3期目

(1)技術事業　①講習会準備工（3・17）小松石石畳講習会　講師河西力氏（4・20～22）作業継続（5・18～20）（6・15～17）仕上完成（9・15）

〈新潟県支部〉

(1)会議の開催　①新年会（1・12）

②支部役員会（1・12）（2・20）（3・25）（4・3、19）（5・29）（8・23）（10・16）（11・9～10）③支部総会（3・25）④忘年会（11・9～10）⑤百周年記念式典参加（10・21）日比谷⑥復興記念庭園開園式参加（5・18）

⑵技術事業　①県外研修会　宮城県内庭園見学（5・18～19）②貞観園技術研修会（6・19）（7・19）（10・5）③支部主催伝統庭園技塾高木剪定講習会（6・26～28）新発田　石泉荘④県内研修会（11・9～10）

〈石川県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（2・15）②役員会（11・18）③本部総会参加（3・16）支部長協議会参加（2・10～11）④百周年記念式典参加（10・21）②技術事業　①伝統庭園技塾参加（5・15～19）覚照寺②版築塀講習会（5・19～20）向川外樹園内③都内庭園視察研修（10・21～22）有楽町他

開会の挨拶をする高橋康夫会長

〈静岡県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（3・18）②本部総会参加（3・16）③支部長連絡協議会参加（2・10）

⑵技術事業　①庭園研修・編み笠門（1・14）（2・11、18）（4・15）（5・13）（6・10）（7・15）（9・2）②技術研修 竹剥ぎから枝折り戸へ（3・25）③天空の坪庭（3・29～4・1）（9・15～17）浜松駅ビル屋上

〈愛知県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（2・10）②復興記念庭園開園式参加（5・18）

⑵技術事業　①第2回石積講座in世田谷（3・25～26）おしゃ楽世田谷②第3回フラリエみらい花フェスタガーデンコンテスト（4・12～15）名古屋市久屋大通庭園フラリエ③第12回石積講座（4・21～22）おしゃ楽④第13回石積講座（11・24～25）おしゃ楽⑤東北宮城県庭園見学研修（5・19～20）

〈近畿支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（4・7）②役員会（7・12）③北米日本庭園協会総会への参加（9・29～10・1）④見学研修（8・24）金沢兼六園　玉泉院丸庭園・松風閣庭園

〈岡山県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（4・9）②百周年記念式典参加（10・21）

⑵技術事業　①古庭園見学（9・23～24）浜松②鳥取県支部講習会参加（10・26～28）

〈広島県支部〉

⑴会議の開催　①全国支部長会議出席（2・10）②支部総会（3・4）③本部総会出席（3・16）④復興記念庭園開園式参加（5・18）

〈鳥取県支部〉

⑴会議の開催　支部総会（1・20）

⑵技術事業　支部講習会（10・26～28）安諸塾石仏彫刻

〈島根県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（1・11～12）②本部総会（3・16）

⑵技術事業　①造園デザイン講座（1・11～12他　6回）②刃研ぎ講習会（8・27）③東京都支部垣根土塀講習会参加（9・1～3）④習得技術実践講座（9・13）奥野邸⑤文化財庭園保存技術者講習会（10・12～14）奥出雲町⑥鳥取県支部石造彫刻講習会参加（10・26～28）

〈山口県支部〉

⑴会議の開催　①全国支部長協議会出席（2月）②定期総会出席（3月）③支部幹事会（4月、7月）④復興記念庭園開園式参加（5月）⑤支部総会（6月）⑥百周年記念式典出席（10月）

〈四国支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（3・31）②役員会（5・19）（9・16）

⑵技術事業　①第1回モルタル造形研修会（6・23）第2回（7・1）③山陰地方研修旅行（10・28～29）山口都市緑化フェア他

以上の報告に続いて収支決算報告を加藤新一郎財務委員長、会計監査報告を中村寛監事が行った結果、満場異議なく了承、第一号議案は可決した。

○第二号議案「平成31年度事業計画、予算説明」

計画説明＝各委員長、支部長

予算説明＝加藤新一郎財務委員長

平成31年度事業計画の概要

【本部事業】

◎本部事業の推進

平成30年10月21日、日比谷公園松本楼において創立百周年記念式典を挙行した。今年は元号が平成から新たな元号に代わる年であり、日本庭園協会も101年目を新元号と共に歩み始める。庭園協会の役割は庭園の価値や素晴らしさを多くの方々に伝えること、庭園の伝統技術を後世に継承していくことであり、これからは新しい時代にふさわしい庭園文化を提案していきたい。

庭園協会は今まで社会に対して様々な声を発してきた。古庭園の保護、整備に力を尽くし、浜離宮、芝離宮庭園を壊滅の危機から救うなど社会貢献を果たしてきた。今後も社会に対して「庭とは何か」を問い続けると共に、庭園の魅力を、その楽しみ方を、市民の皆様や海外の庭園を愛する方々に伝えることが大きな役割であり、日本が誇るべき伝統的な庭園技術の保存及び新たな技術の開発に努めていきたい。なお、来年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催され多くの外国人が来日するので、日本の文化を伝える絶好の機会である。特に日本文化を代表する庭園にかける期待は大きい。

庭園協会の会員数はここ数年では500名前後で推移しているが、庭園の魅力を多くの市民に伝えるためには会員増が必至であり、「会員1人が新会員1人」を目標に新たな会員を開拓する。時代の変化が激しい中、若手の登用を積極的に推進し、時代に適合した協会の運営を目指す。

日本造園組合連合会、日本造園建設業協会、国土交通省、都市緑化機構、各大学などと一層の連携を図り、緩やかな庭園及び造園大連合を目指す。

庭園技術連続基礎講座もより斬新な内容とし、日本を代表する技術、作庭手法を持つ先達が若い世代に確実に技術を伝える内容とする。また、「みんなの緑学」講座に庭園協会の枠を設定し、市民に向けた庭園講座を実施する。伝統庭園技塾については東日本大震災復興記念庭園での5か年の計画が終了したので、新たな形の技塾を推進する。

鑑賞研究委員会は庭園の素晴らしさを市民に伝える重要な役割を担っており、若い人の積極的な参加を働きかけると共に市民に開かれた鑑賞会を推進するためより多くの機会を設ける。

広報委員会は本部及び支部の最新の情報を発信するとともに、新たな協会パンフレットを作成し、協会の存在を広く知らしめると共に会員の入会を積極的に行う。

国際活動委員会は国土交通省の進める海外庭園の修復などに積極的に関わり、庭園協会の技術力を海外で発揮すると共に次代を担う若手を育成する。

本部と支部は車の両輪であり、全国支部長協議会と本部の関係を密接にして一層連携を深め、協会の事業展開を進める。なお各支部はそれぞれ独自の活動を行い、個性豊かな事業展開を図る。九州支部の設立を目指す行動を開始する。

日本庭園協会賞については昨年度新たな形で募集を行ったが、その結果を踏まえてより良い協会賞に改善していく。

⑴総務事業

第1回常務理事会（1・27）・第6回全国支部長連絡協議会（1・26～27）成田市・第2回常務理事会（2・26）

第1回理事会（2・26）NATULUCK四谷駅前貸会議室・評議員会・定期総会（3・15）以降随時開催

その他　総務委員会の運営体制の増強、当協会ホームページの拡充

⑵鑑賞研究事業　①講演会（今年度も東京都支部と共催予定）②日帰り見学会（春～初夏）千葉方面③一泊見学会（秋）

⑶技術事業　①第11回庭園技術連続基礎講座（5・26、6・30、7・28、8・25、9・29全5回を計画中）②支部・本部共催講座（4・14～15）「静岡県も捨てたもんじゃない庭」（静岡県奥浜名湖の古刹名園をめぐる）講師：生熊里佳、廣瀬慶寛　会場：アクトシティ浜松・研修交流センター　拝観：摩訶耶寺、大福寺、龍潭寺

③　伝統庭園技塾（4・5～7）高枝剪定講習会　宮城県支部・本部共催

⑷広報事業　①広報委員会開催（適宜開催予定）②庭園協会ニュースの発行　第95～98号・年間4回（1・3・7・11月）発行予定　第95号1月31日発行済み③GSJミニニュースの発行（全会員へのはがき通信）事業計画に従い随時発行④ホームページを利用しての広報活動を重点的に考える

★創立百周年記念誌出版委員会

記念誌正誤表作成　庭園ニュース第

龍居竹之介名誉会長の挨拶

日本庭園協会賞受賞者、新 肇会員の記念講演

96号（平成31年3月発行予定）同封予定

⑸国際活動事業　支部長連絡協議会において参加支部長にシカゴのプロジェクトについて説明　参加メンバーについて会長と打合せ（1・26）都市緑化機構にて「平成30年度の連絡報告会　高橋会長、柴田、三橋（2・13）国土交通省にて「姉妹都市等海外日本庭園修復事業」についての会議に出席（3・18）シカゴに行き材料下見、ホテル、アクセス他現地にて作業内容、区分を具体的に打合せ（4・10頃）作業実施にシカゴへ出発（6・5～13頃）ポートランド日本庭園インスティテュート・セミナーに参加　講師：曽根将郎氏（国際活動委員）予定

【支部事業】

〈北海道南支部〉

⑴会議の開催　適宜

⑵技術事業　①石積講習会（4月・10月）桃井造園内

〈宮城県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会・新年会（1・20）②役員会　随時

⑵技術事業　庭づくり講習会・講演会、東日本大震災復興記念庭園整備作業　随時

〈茨城県支部〉

⑴会議の開催　①県立歴史館竹垣他研修打合せ、新年会（1・24）②支部長連絡協議会参加（1・26～27）③支部総会（3月）④本部評議員会・総会（3・15）⑤支部役員会（5月）⑥支部役員会（12月　反省会及び今後の事業計画）

⑵技術事業　①県立歴史館竹垣他講習会（3・30、31）②「新潟県の庭」視察研修（6・9，10）③技能研修会（11月）

〈埼玉県支部〉

⑴会議の開催　①総会・新年会（1・27）

⑵技術事業　①研修会（5月・6月・8月）②研修旅行（10月）③作品発表会（12月）

〈千葉県支部〉

⑴会議の開催　①役員会（4月上旬・6月上旬・8月上旬・10月上旬・12月上旬・1月上旬・2月上旬・3月上旬）②新年会（1月下旬）第7回全国支部長連絡協議会・千葉支部担当（1月）＊総会・支部総会準備その他、活動計画に合わせて必要な時②支部総会（5・11）③懇親会にてBBQ大会（8月下旬予定）

⑵技術事業　①庭園見学会　技術研修会のテーマ「茶道と茶庭を楽しむ」清澄庭園他　（6月下旬を予定）②技術講習会・会員の技術から、蹲踞を生かした作庭②支部会員の提案でミニ研修会を希望に合わせて開催

〈東京都支部〉

⑴会議の開催　①支部総会・懇親会（4・21）②幹事会（2・9、2・24、3・9）以降随時開催

⑵技術事業　第3回連続交歓講座の企画進行中・鑑賞研究委員会との共催企画の検討、本部企画・他支部活動への参加、その他支部会員の提案、希望により随時開催を検討する

〈神奈川県支部〉

⑴会議の開催　適宜

⑵技術事業　①桂垣作成講習会　小田原総世寺地内　講師：支部会員星宏海氏（日程未定）

〈新潟県支部〉

⑴会議の開催　適宜

⑵技術事業　①新潟県支部主催第25回伝統庭園技塾（6月頃、石泉荘）②貞観園技術研修会（日程未定・柏崎貞観園）③新潟県支部創立30周年記念事業（10月頃・新発田　五十公野公園）④支部会員勉強会　県外研修会（未定）県内研修会（月岡温泉華鳳）その他記念事業・講演・30周年記念誌作成（検討中）

〈石川県支部〉

⑴会議の開催　適宜

⑵技術事業　①研修会　重量物の運搬方（6月中旬頃・向川外樹園敷地内）②講習会　金沢仕様のアカマツ剪定法（10月中旬頃・いこいの村能登半島）

〈静岡県支部〉

⑴会議の開催　通常総会（3・24）

⑵技術事業

⑶視察研修　①本部共催講座「奥浜名湖の庭を楽しむ」（4・14～15）会員の提案、希望により随時開催編笠門の製作、天空の坪庭、臥雲寺庭園研修会

〈愛知県支部〉

⑴会議の開催　支部総会（2・16）

⑵技術事業　①庭園見学会（1・27・あいや別荘、華蔵寺等）②第4回フラリエみらい花フェスタガーデンコンテスト参加（4・12～15・名古屋市）③作庭施工事例勉強会（5

月・7月・9月）④隔月「建築家、ビルダーとの交流勉強会」

〈近畿支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（4月初旬予定）②役員会（7月中旬）

⑵技術事業　見学研修を計画

〈岡山県支部〉

⑴会議の開催　未定

⑵技術事業　未定

〈広島県支部〉

⑴会議の開催　支部総会（2月～3月予定）

⑵技術事業　見学会開催予定

〈島取県支部〉

⑴会議の開催　支部総会（1・19）

⑵技術事業「安諸塾ＩＮ鳥取2019」版築（10・10～13）

＊他支部との交流と情報交換

〈島根県支部〉

⑴会議の開催　①第3回支部総会（1・11）②支部長連絡協議会出席（1・26）③本部定期総会出席（3・15）

⑵技術事業　①炭窯作り研修会（3月）②竹炭作り（4月）③茅葺屋根作り研修会（4月）④ワークショップ開催（5月）⑤巨石・イワクラツアー（9月）⑥鳥取支部研修会（10月）

〈山口県支部〉

⑴会議の開催　①支部長協議会出席（1月）②支部幹事会（2月・5月・10月）③総会及び評議員出席（3・15）④支部総会（6月）

⑵技術事業　①支部研修会（9月）②支部講習会（11月）

〈四国支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（3月）②役員会（日程未定）

⑵技術事業　①土壌改良講習会（3・16）②庭園見学会

以上の報告に続いて、平成31年度収支予算案の報告が行われた結果、全員異議なく了承、第二号議案は可決した。

○第三号議案「日本庭園協会創立百周年記念事業報告」

趣旨説明＝高橋康夫会長

大正7年に創立された日本庭園協会は、会員の皆様から多くの寄付を頂き全員参加の下に庭園協会でしかできない事業を展開し、100周年を祝うことができた。

実施した支部本部共催事業

⑴東日本大震災復興記念庭園開園式典（5・18）

被害を受けた宮城県支部が提案し、5年をかけ完成。延べ3500人が伝統庭園技塾を含む築庭に参加した。

⑵清澄庭園連続講演会

都指定名勝でありながら国指定名勝に十分該当するという再評価を各界から講師を招き講演会を開催。

講師：龍居竹之介、内田青蔵、原徳三、亀山章、松島義章（敬省略）

⑶国指定名勝庭園・浅草寺本坊「伝法院庭園」修復基礎研修

修復工事中の本坊庭園内にて植物整理など庭園整備の基礎研修を開催し、多くの若手会員の参加を得た。

⑷創立百周年記念式典

1．創立百周年記念講演会（日比谷公園内緑と水の市民カレッジ）①東京農業大学地域環境科学部造園科学科准教授　粟野隆氏「日本庭園の未来～100年後を夢見て」②ポートランド日本庭園ＣＥＯスティーブ・Ｄ・ブルーム氏「日本庭園の世界展開」参加者89名

2．創立百周年記念式典・祝賀会（日比谷公園内松本楼）日本庭園協会賞賞＝新　肇　審査員特別賞＝内山貞文　永年会員表彰＝大平暁　金子直作　菊地正樹　小銭万作　野村脩　廣瀬辰臣　三橋一夫　與五澤廉司　特別表彰＝田中泰阿弥研究会　東日本大震災復興記念庭園築庭・宮城県支部特別名誉会員推挙＝スティーブ・Ｄ・ブルーム氏　特別功労賞＝龍居竹之介名誉会長　以上各受賞者に授与　龍居竹之介名誉会長講話「庭園協会100年よもやま話」参加者113名

第三号議案は、詳細の確認後、承認された。

○第四号議案「総会議決事項の委任の件」

趣旨説明＝高橋康夫会長

第四号議案は、全員異議なく、承認された。

常務理事会への委任が可決された。2019年度収支予算に関する件。2019年度収支予算の補正及び特別会計に関する件。

議長退席

休憩後、日本庭園協会賞受賞者新肇会員の記念講演、龍居竹之介名誉会長の講演を終え、平成31年度一般社団法人日本庭園協会定期総会は、藤枝修子副会長の閉会の辞で無事終了した。引き続き会場を移して懇親会が開かれた。

総会が開かれた明治神宮の森

平成 30 年度収支計算書

平成 30 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日まで

科　目		予算額	本年度決算額	増　減
Ⅰ　事業活動収支の部				
1．事業活動収入				
入会金収入		195,000	242,000	△ 47,000
会費収入	受取会費	6,000,000	6,332,000	△ 332,000
事業収益	講座収入	600,000	570,000	30,000
	鑑賞研究講演会	100,000	68,000	32,000
	鑑賞研究見学会	600,000	1,267,300	△ 667,300
	庭園協会賞講演会費	600,000	767,000	△ 167,000
	受託事業費	100,000	2,148,085	△ 2,048,085
	伝法院研修参加費	0	149,000	△ 149,000
受取寄付金		500,000	1,330,000	△ 830,000
雑収益	受取利息	10,000	140	9,860
	雑収益	0	16,310	△ 16,310
事業活動収入計		8,705,000	12,889,835	△ 4,184,835
2．事業活動支出				
1 事業費支出				
1-1	広報委員会費	1,220,000	1,181,610	38,390
	会報印刷費	520,000	513,378	6,622
	会報郵送料	600,000	454,232	145,768
	会報取材編集費	100,000	100,000	0
	協会刊行物在庫配布	0	114,000	0
1-2	鑑賞研究委員会費	480,000	1,308,168	△ 828,168
	鑑賞研究講演会費	80,000	68,000	12,000
	鑑賞研究見学会	400,000	1,240,168	△ 840,168
1-3	技術委員会費	836,000	799,970	36,030
1-3-1	講座費	500,000	446,970	53,030
	講師謝礼	180,000	170,000	10,000
	講師旅費交通費	40,000	18,000	22,000
	事務・会場手伝い謝礼	75,000	70,000	5,000
	講座会場費	140,000	135,460	4,540
	講座用事務・消耗品費	65,000	53,510	11,490
1-3-2	地方講演会費	20,000	0	20,000
	講師謝礼	20,000	0	20,000
	講師旅費交通費	0	0	0
1-3-3	伝統庭園技塾（仙台）	240,000	282,000	△ 42,000
	講師謝礼	120,000	120,000	0
	講師旅費交通費	120,000	162,000	△ 42,000
1-3-4	文化財指定庭園調査会費	76,000	71,000	5,000
	文化財指定庭園保護協議会年会費	20,000	15,000	5,000
	文庭協総会負担金	56,000	56,000	0
1-4	国際活動委員会費	100,000	2,677,768	△ 2,577,768
	本部会議時国際委員交通費補助	20,000	0	20,000
	NAJGA 年会費	65,000	40,466	24,534
1-5	国際交流費	15,000	2,637,302	△ 2,622,302
	文化財指定庭園調査・修復費	70,000	0	70,000
②管理費				
2-1	定期総会費	700,000	934,369	△ 234,369
	通信運搬費	85,000	93,090	△ 8,090
	総会資料印刷	15,000	0	15,000
	庭園協会賞講演会費	600,000	841,279	△ 241,279
2-2	本部諸会議費	257,000	107,165	149,835
	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	10,000	1,450	8,550
	会議用資料コピー代	3,000	0	3,000
	地方役員交通費補助	74,000	0	74,000
	常務理事会会議費	170,000	105,715	64,285
2-3	事務局職員給料	1,000,000	1,013,900	△ 13,900
2-4	事務局職員交通費	240,000	237,620	2,380
2-5	ホームページ運営管理費	201,000	151,016	49,984
	ウェブサイト管理費	195,000	145,800	49,200
	サーバードメイン更新料	6,000	5,216	784
2-6	渉外慶弔祝賀費	200,000	142,400	57,600
	渉外費（関係団体賛助金）	60,000	70,000	△ 10,000
	慶弔費	60,000	32,400	27,600
	支部活動お祝い金	80,000	40,000	40,000
2-7	本部役員地方出張旅費交通費	100,000	2,000	98,000
2-8	通信費	600,000	566,652	33,348
	郵便・配送費	500,000	449,521	50,479
	電話料	100,000	117,131	△ 17,131
2-9	事務用品・消耗品費	300,000	542,046	△ 242,046
2-10	宣伝広告費	110,000	151,200	△ 41,200
2-11	水道光熱費	55,000	51,663	3,337
2-12	賃借料	1,186,400	1,279,131	△ 92,731
	事務所家賃	1,010,000	1,099,287	△ 89,287
	コピー機リース料	176,400	179,844	△ 3,444
2-13	銀行手数料等	90,000	123,114	△ 33,114
2-14	顧問料	150,000	0	150,000
	会計事務所顧問料	100,000	0	100,000
	法律事務所顧問料	50,000	0	50,000
	0	10,030	10,000	30
	百周年記念事業	0	4,587,604	△ 4,587,604
経常費用計		7,905,430	15,867,396	△ 7,961,966
当期経常増減額			△ 2,977,561	
当期一般正味財産増減額			△ 2,977,561	
一般正味財産期首残高			7,324,302	
一般正味財産期末残高			4,346,741	
Ⅱ 正味財産期末残高			4,346,741	

収支計算書に対する注記

1．　資金の範囲

資金の範囲には、現金及び預金、未収会費、立替金及び未払金、前受会費、仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記 2．に記載するとおりである。

2．　次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期末残高
現金及び預金	7,226,529	4,346,741
前払金	77,143	0
貯蔵品	114,000	0
合　計	7,417,672	4,346,741
未払金	97,200	0
源泉所得税預り金	18,567	0
震災復興庭園寄付預り金	-33,398	0
仮受金	11,001	0
合　計	93,370	0
次期繰越収支差額	7,324,302	4,346,741

貸 借 対 照 表

平成 30 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	金　額	科　目	金　額
Ⅰ　資産の部		Ⅱ　負債の部	
1．流動資産		1．流動負債	
現金	3,196	流動負債合計	0
普通預金（みずほ）	2,846,155	負債合計	0
振替貯金	1,198,827		
通常貯金（ぱるる）	298,563		
定期預金	0		
		Ⅲ　正味財産の部	
		1．一般正味財産	4,346,741
		正味財産合計	4,346,741
資産合計	4,346,741	負債及び正味財産合計	4,346,741

財 産 目 録

平成 30 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
現金預金	
現金手許有高	3,196
普通預金　みずほ銀行　口座番号　1716382	2,665,150
普通預金　みずほ銀行　口座番号　1159951	1,000
普通預金　みずほ銀行　口座番号　1159943	180,005
振替貯金　ゆうちょ銀行 #00140-4-665089	121,110
振替貯金　ゆうちょ銀行 #00110-5-76081	1,077,717
通常貯金　ゆうちょ銀行 #00110-5-76081	298,563
定期預金　みずほ銀行	0
資産合計	4,346,741
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産	4,346,741

監　査　報　告　書

下記監事 3 名は、一般社団法人日本庭園協会 において、会長の提出した平成 30 年度における会務の執行を総括した会費収入の「事業活動支出」の内訳並びに「収支計算書」「正味財産増減計算書」「貸借対照表及び財産目録」等につき監査した。

監査の結果、会務の執行は当該協会の定款に基づき誠実に行なわれており、正確に処理されていることをみとめます。

平成 31 年　3 月　8 日

一般社団法人　日本庭園協会

監事　野村 脩／同　高梨 節子／同　中村 寛

正 味 財 産 増 減 計 算 書

平成 30 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目		予算額	本年度決算額	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
（1）経常収益				
①入会金収入	入会金収入	195,000	242,000	△ 47,000
②会費収入	受取会費	6,000,000	6,332,000	△ 332,000
③事業収益	講座収入	600,000	570,000	30,000
	鑑賞研究講演会	100,000	68,000	32,000
	鑑賞研究見学会	600,000	1,267,300	△ 667,300
	庭園協会賞講演会（総会）費	600,000	767,000	△ 167,000
	受託事業費	100,000	2,148,085	△ 2,048,085
	伝法院研修参加費	0	149,000	△ 149,000
④受取寄付金	受取寄付金	500,000	1,330,000	
⑤雑収益	受取利息	10,000	140	9,860
	雑収益	0	16,310	△ 16,310
	事業活動収入計	8,705,000	12,889,835	△ 4,184,835
（2）経常費用				
①事業費	広報委員会費	1,220,000	1,181,610	38,390
1-1	会報印刷費	520,000	513,378	6,622
	会報郵送料	600,000	454,232	145,768
	会報取材編集費	100,000	100,000	0
	協会刊行物在庫配布	0	114,000	0
	鑑賞研究委員会費	480,000	1,308,168	△ 828,168
1-2	鑑賞研究見講演会費	80,000	68,000	12,000
	鑑賞研究見学会	400,000	1,240,168	△ 840,168
	技術委員会費	836,000	799,970	36,030
1-3	連続講座費	500,000	446,970	53,030
1-3-1	講師謝礼	180,000	170,000	10,000
	講師旅費交通費	40,000	18,000	22,000
	事務・会場手伝い謝礼	75,000	70,000	5,000
	講座会場費	140,000	135,460	4,540
	講座用事務・消耗品費	65,000	53,510	11,490
	地方講演会費	20,000	0	20,000
1-3-2	講師謝礼	20,000	0	20,000
	講師旅費交通費	0	0	0
	伝統庭園技塾	240,000	282,000	△ 42,000
1-3-3	講師謝礼	120,000	120,000	0
	講師旅費交通費	120,000	162,000	△ 42,000
	文化財指定庭園調査会費	76,000	71,000	5,000
1-3-4	文化財指定庭園保護協議会年会費	20,000	15,000	5,000
	文庭協総会負担金	56,000	56,000	0
	国際活動委員会費	100,000	2,677,768	△ 2,577,768
1-4	本部会議時国際委員交通費補助	20,000	0	20,000
	NAJGA 年会費	65,000	40,466	24,534
1-5	国際交流費	15,000	2,637,302	△ 2,622,302
	文化財指定庭園調査・修復費	70,000	0	70,000
②管理費				
2-1	定期総会費	700,000	934,369	△ 234,369
	通信運搬費	85,000	93,090	△ 8,090
	総会資料印刷	15,000	0	15,000
	庭園協会賞講演会費	600,000	841,279	△ 241,279
2-2	本部諸会議費	257,000	107,165	149,835
	通信運搬費（出欠葉書・荷物運搬）	10,000	1,450	8,550
	会議用資料コピー代	3,000	0	3,000
	地方役員交通費補助	74,000	0	74,000
	常務理事会会議費	170,000	105,715	64,285
2-3	事務局職員給料	1,000,000	1,013,900	△ 13,900
2-4	事務局職員交通費	240,000	237,620	2,380
2-5	ホームページ運営管理費	201,000	151,016	49,984
	ウェブサイト管理費	195,000	145,800	49,200
	サーバードメイン更新料	6,000	5,216	784
2-6	渉外慶弔祝賀費	200,000	142,400	57,600
	渉外費（関係団体賛助金）	60,000	70,000	△ 10,000
	慶弔費	60,000	32,400	27,600
	支部活動お祝い金	80,000	40,000	40,000
2-7	本部役員地方出張旅費交通費	100,000	2,000	98,000
2-8	通信費	600,000	566,652	33,348
	郵便・配送費	500,000	449,521	50,479
	電話料	100,000	117,131	△ 17,131
2-9	事務用品・消耗品費	300,000	542,046	△ 242,046
2-10	宣伝広告費	110,000	151,200	△ 41,200
2-11	水道光熱費	55,000	51,663	3,337
2-12	賃借料	1,186,400	1,279,131	△ 92,731
	事務所家賃	1,010,000	1,099,287	△ 89,287
	コピー機リース料	176,400	179,844	△ 3,444
2-13	銀行手数料等	90,000	123,114	△ 33,114
2-14	顧問料	150,000	0	150,000
	会計事務所顧問料	100,000	0	100,000
	法律事務所顧問料	50,000	0	50,000
	0	10,030	10,000	30
	百周年記念事業	0	4,587,604	△ 4,587,604
経常費用計		7,905,430	15,867,396	△ 7,961,966
当期経常増減額			△ 2,977,561	
当期正味財産増減額			△ 2,977,561	
一般正味財産期首残高			7,324,302	
一般正味財産期末残高			4,346,741	
Ⅱ 正味財産期末残高			4,346,741	

2019 年度予算書

2019 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目		29 年度決算額	30 年度予算額	
Ⅰ　事業活動収支の部				
1．事業活動収入				
①入会金収入	入会金収入	195,000	185,000	
②会費収入	受取会費	6,000,000	6,760,000	
③事業収益	講座収入	600,000	525,000	
	鑑賞研究講演会	100,000	100,000	
	鑑賞研究見学会	600,000	1,500,000	
	庭園協会賞講演会費	600,000	600,000	
	受託事業費	100,000	3,600,000	
	国際交流費	0	1,500,000	
④雑収益	雑収益			
	広告収入	100,000	50,000	
	受取利息	10,000	10,000	
	雑収益	0	0	
事業活動収入計		8,305,000	14,830,000	
2．事業活動支出				
1 事業費支出				
1-1	広報委員会費	1,220,000	1,280,000	
	会報発行印刷配布費	520,000	520,000	
	会報印刷費	600,000	660,000	
	会報郵送料	100,000	100,000	発行 10 回＋送料
1-2	鑑賞研究委員会費	480,000	450,000	
	鑑賞研究講演会費	80,000	50,000	
	鑑賞研究見学会	400,000	400,000	
1-3	技術委員会費			
1-3-1	連続講座費	500,000	646,000	
	講師謝礼	180,000	500,000	
	講師旅費交通費	40,000	180,000	
	事務・会場手伝い謝礼	75,000	40,000	
	講座会場費	140,000	75,000	
	講座用事務・消耗品費	65,000	140,000	
1-3-2	地方講演会費	20,000	65,000	
	講師謝礼	20,000	70,000	
	講師旅費交通費	0	20,000	
1-3-4	文化財指定庭園調査会費	76,000	50,000	
	文化財指定庭園保護協議会年会費	20,000	76,000	
	文庭協総会負担金	56,000	20,000	
1-4	国際活動委員会費	100,000	56,000	
	本部会議時国際委員交通費補助	20,000	85,000	
	NAJGA 年会費	65,000	20,000	
	国際交流費（NAJGA 調印式参加費）	15,000	65,000	
1-5	文化財指定庭園調査・修復費	70,000	1,500,000	
1-6	100 周年記念事業積立金	500,000		
2　管理費支出				
2-1	定期総会費	685,000	815,000	
	総会用事務・消耗品費	85,000	15,000	
	庭園協会賞講演会費用	600,000	800,000	
2-2	会議費	207,000	310,000	
	通信運搬費	10,000	10,000	
	会議費	100,000	100,000	
	会議用資料コピー代	3,000	10,000	
	会場費	20,000	120,000	
	地方役員交通費補助	74,000	70,000	
2-3	事務局職員給料	1,000,000	1,000,000	
2-4	事務局職員交通費	240,000	240,000	
2-5	ホームページ運営管理費	201,000	201,000	
	ウェブサイト管理費	195,000	195,000	
	サーバードメイン更新料	6,000	6,000	
2-6	渉外慶弔祝賀費	200,000	200,000	
	渉外費（関係団体賛助金）	60,000	60,000	
	慶弔費	60,000	60,000	
	支部活動お祝い金	80,000	80,000	
2-7	本部役員地方出張旅費交通費	100,000	100,000	
2-8	通信費	600,000	600,000	
	郵便・配送費	500,000	500,000	
	電話料	100,000	100,000	
2-9	事務用品・消耗品費	300,000	400,000	
2-10	宣伝広告費	110,000	110,000	
2-11	水道光熱費	55,000	55,000	
2-12	賃借料	1,186,400	1,170,000	
	事務所家賃	1,010,000	950,000	
	コピー機リース料	176,400	220,000	リース料値上げ
2-13	銀行手数料等	90,000	120,000	
2-14	会計事務所顧問料	100,000	100,000	初年度 10 万、来年から 5 万
2-15	諸雑費	10,030	10,030	火災保険料
予算外		8,465,430	9,392,030	

平成31年度

伝統庭園技塾　高枝打ち剪定講習会

平成31年4月5日～7日
宮城県大和町　覚照寺

日々の仕事で活かしたい

黒森　海斗

今回の伝統庭園技塾では、青森県の吉田愛輝先生にお越し頂き、ご指導いただきました。高木剪定講習は、高所作業車の使用ができない場での作業を想定した、ロープを用いた剪定技術です。吉田先生は、ロープワークを用いた剪定技術は安全な技法ではあるが、一つの間違えにより大きな事故につながる危険性があるので、安全確認の重要性を説かれました。私はこの講習会が開かれる前に仕事で右手を負傷し、実技作業は参加せずに見学のみの参加でしたので、吉田先生の仕事に対する安全意識に身が引き締まりました。今回の講習会で、一番身になったのはランヤードというロープを用いた剪定技術です。ランヤードを利用することで、体を安定させ、両手で作業することができるため、脚立を立てにくい場所や、高木での剪定作業を安全で楽に行えることを知りました。私は高木剪定というと、特殊な作業のイメージで私が勤めている会社の仕事は主に一般住宅の剪定、造園工事が多く、講習で得た高木剪定の技術を普段の仕事で活かすことができるか、心配して臨みましたが、いざ受講してみると普段の仕事内容では気づかない新しい発見がありました。

今回の技塾で学んだことを、日々の仕事で活かしていきたいと思います。

（正会員　宮城県支部）

安全に作業するための基本を学ぶ

吉田愛輝講師の説明を聞く塾生たち

経験を積むことが必要

渡邉　学

仙台駅に着いた当日は天候も良く講習会日和でした。昼食後の座学で吉田愛輝講師よりロープワークでの登り方を説明して頂きました。野外での道具の説明の後、まったく機械が入らない場所でも軽装備で作業ができるという講習です。ロープを連結するときに使うウォーターノットという結び方も吉田先生のご指導でできるようになりました。1日目の夜の宴会は美味しい料理とお酒を頂き、ふだん聞けないような先生方のお話が聞けて勉強になりました。2日目は悪天候の中、分かりやすいご指導で昇降装置とロープが作れるようになりました。しかしロープワークが複雑なため、体にしみこませ何度も繰り返して自分のものにしなければなりません。登る作業には苦戦しましたが何とかこなせるようになりました。横山英悦講師による東日本大震災復興記念庭園の説明もとても勉強になりました。午後はロープワークの復習や木の昇り降り、ロープを木に掛ける作業の時に使う大きなビッグショットという道具にも触れられて本当に良かったです。

3日目の内田均先生の樹木医学に触れた内容は特に勉強になりました。高所での枯れ枝処理剪定作業という不安定な場所での作業は危険が多いので、たくさん経験を積むことが必要だと感じました。

（正会員　神奈川県支部）

高木に登るだけではなく安全を確保した上での作業技術の習得が目標

勉強を重ねていきたい

庭いち従業員

私は造園業界に入ってまだ間もないのですが、親方の誘いで参加させていただきました。高木の剪定技法の講習会に普通の剪定技術も勉強中の私が参加しても大丈夫なのかという不安がありましたが、講師の吉田愛輝先生が和む雰囲気を作ってくださり、気負うことなく講習に没頭してしまいました。先生の自前の道具はクライミング用のロープやカラビナ、手製のランヤード等、どれもカラフルで見ているだけで好奇心を煽られるものばかりでした。高枝にロープを掛けるためのパウチとそれを飛ばすための道具も初めて見るもので興味がわきました。まずはロープワークを正確にできるまで、何度も繰り返し練習しました。その後高所に掛けられたクライミングロープを垂直に登り、安全に降りるという基本を何度も練習させてもらいました。2日目は特に皆が興味を持った手製のランヤードの使い方を教えていただきました。先生のランヤードは2本が可動式になっており、実際に木の上で使用してみると安全な仕置で体を預けて両手を離せる優れものでした。試行錯誤を繰り返して作られた手製の道具と長年培われてきた貴重な技術を分かりやすく丁寧に指導していただいてとても実のある講習会でした。今回得た技術を実践で使うことができるよう勉強を重ねていきたいと思います。

（会員師弟　宮城県支部）

何度も繰り返して身に付ける

静岡県支部・本部共催講座

『遠江地方の作庭を学び庭を巡る』

平成31年4月14日～15日

静岡県支部・本部共催講座を終えて

石井　敬明

平成31年4月14日～15日の2日間共催講座を無事終了することができました。お礼申し上げます。ここで講座の内容を私の感想を交えて報告させて頂きます。1日目は座学として生熊里佳氏の「作庭書と遠江地方の作庭について」、廣瀬慶寛氏の「わたしの庭づくり」というテーマでお話を伺いました。生熊氏には「作庭記」、「山水並びに野形図」、「築山庭造伝」など対象資料52冊を読み解き、解説して頂きました。各作庭書をもとに遠江地方の現存する庭を材料に俯瞰的に考察した内容でした。各庭園をグリッド化（マス目状に区割り）し、法則性を探そうとしたもので庭の広がり（縦長、横長）、マスの大小にもよるでしょうが礼拝石・三尊石・築山・滝組の配置の共通点を見出されたようです。私たちが庭を構成物との互いの関わりの中でとらえるのとは違い、別の視点からのアプローチに脳の隅を突かれた思いでした。

廣瀬氏の庭は、蹲踞や流れなどの水景、それを包み込む雑木林、家のスケールに応じた地割造作の妙、材料の選択でしょうか自然で押し付けがましさのない世界が、逆に作庭者のゆるぎない世界をも感じさせます。廣瀬氏は庭が完成してからの施主の草取り、水やり、掃除など地道な作業により本来の庭が形作られている様を感謝し楽しんでいます。年に何度か手入れに入るだけではその場しのぎで終わってしまいます。日々管理されている庭を拝見すると植木屋は感無量になると共に気も引き締まります。氏がくどいように言われた「庭を作るのも大切だが、普段の管理はもっと大切である」との言葉に庭に対する気持ちが表れています。

摩訶耶寺庭園

2日目は摩訶耶寺、大福寺、天白磐座遺跡、龍潭寺を探訪しました。摩訶耶寺は、いくつかの築山がなだらかな曲線を描き、中腹に三尊石が、中島に力強い横石が鎮座し、全体的にバランスがよく見ごたえのある庭園です。もともと豪族の邸宅庭園と考えられています。摩訶耶なる語は「マカヤーナ」と言う梵語で「優れた教え」という意味だそうです。大福寺は摩訶耶寺の北西に位置し、摩訶耶寺と同じ真言宗高野派に属しています。庭は広い池と正面の高い築山で構成されています。生熊氏のグリッド化した時に見えてくる役石、築山の配置になります。書籍によると『月を写す池と周囲の緑に遊ぶ風との出会いを楽しむ場所』と書かれており、頷けるものがありました。天白磐座遺跡は渭伊神社本殿の背後にあります。裏手に登って行くと、突然天を突くように2石の巨岩を中心とした石群があり古墳時代から平安時代へと続く祭祀場です。庭は自然の造形を神格化し、宗教的な庭へとそして現在へとつながって来ていると思います。龍潭寺は名勝であり、本殿までの石畳の行程も心憎く、気持ちを盛り上げてくれます。機会がありましたら訪れてください。また庭を平面グリッド化して見ると単純に当てはまってくるのが面白かったです。奥浜名の狭い地域にありながら鑑賞に堪える庭が多くあるのはなぜでしょう。古代から続く東西を結ぶ重要な道筋であり、各時代の人たちを惹きつける魅力があったのでしょう。今回の講座で奥浜名の文化を再確認した次第です。

（評議員　静岡県支部長）

大福寺庭園

天白磐座遺跡

貴重な体験

相澤　武

先日、廣瀬慶寛先生による「わたしの庭づくり」の講演と、井熊里佳先生による「作庭書と遠江地方の庭園について」の講演及び、静岡県奥浜名の古刹の名園巡りをさせて頂きました。

廣瀬先生の講演におきまして、先生の作られた庭の写真を拝見しながら、そのお庭の解説をして頂きました。雑木を使い、きれいに掃き清められた地に瑞々しい苔が出ている写真や、露地、外庭周辺の写真を見ながら、切石の据付の向きと空間との関係、苔貼り掃除と地苔の関係、近隣住宅と庭の関係等、聞かなければわからなかったことを一つ一つご説明頂きました。このお話が、今後何かの時にふと思い出せるように勉強していけたらと思った次第でございます。

井熊先生の講演では、作庭書の中での庭坪地形の記述を遠江地方の庭園にあてはめ解説して頂きました。そして、庭坪地形の主要部分である築山・三尊石・中島・主人島・客人島・礼拝島の位置関係についての説明を、実際に摩訶耶寺・大福寺・龍潭寺の庭を巡り確認しました。

龍潭寺庭園

伝統の作庭手法による庭を、知識を持ってみることで庭を考える上での基礎の一つを得ることができたようです。また、実際の庭を見ることでそれがより具現的に感じることができたのは貴重な体験となりました。

今回この他に、古代、庭の考え方の基礎となり、神事の対象になっていたという磐座の見学等いろいろなお話をお聞かせ頂き、有意義な時間を過ごすことができました。また、このような機会がございましたら、どうぞよろしくお願いたします。

（正会員　神奈川県支部）

集合写真

鑑賞研究委員会

春の日帰り庭園見学会
―千葉県成田～佐倉地区

令和元年5月19日

藤枝　修子

2019年5月19日（日）、千葉県支部の皆様のご協力により、好天に恵まれて、新緑の美しい庭園を参加者21名で見学できました。

10時30分にJR成田駅東口（参道口）に集合し、駅前からはじまる成田山新勝寺参道を歩きながら、加藤平一会員作庭による前庭3ヶ所、小滝とせせらぎの音に癒されながらテレビで紹介されたと聞く露地で小休止をとりました。

信徒会館から、ボランティアの男性（2名）の案内により、新勝寺境内の歴史的建造物を経て、比較的段差の少ない経路で平和大塔前の噴水に至りました。右手の雄飛の雄滝と雌滝は、篤信の斎藤末吉が奉納し、昭和3年10月23日に開瀑式を行いました。行場で、石組は黒ボク石で仕上げたとのことです。文殊の池、龍樹の池、龍智の池は、書道美術館側と二つのグループに分かれて、浮御堂まで見学しました。この庭園は、福羽逸人の一番弟子の林脩巳が設計し竣工しました。三つの池のネーミングは仏教界では知らない人がなく、新勝寺の重みを感じました。また、日本庭園は柴田徳次郎（柴田集花園）に発注され、筑波石を大量に使用したことが、後継の岩城造園に伝えられているとか。浮御堂前の駐車場から、昼食のため、翁本家へ向かいました。

龍泉の湯庭園（加藤平一会員作庭）

成田山公園　龍智の池

午後は3ヶ所を見学しました。まず、成田市松崎の龍泉の湯では、作庭者の加藤平一会員からエントランスの庭2ヶ所と休憩室前庭の作庭意図の説明がありました。次いで、佐倉市鏑木町の「旧堀田邸」を見学しました。「旧堀田邸」は、幕末最後の佐倉藩主堀田正倫が明治期に設けた邸宅と庭園で、邸宅は「旧堀田家住宅」として国の重要文化財に、庭園は「旧堀田正倫庭園」として国の名勝に指定されています。「さくら庭園」の愛称で親しまれている広大な庭園は、東京巣鴨の植木職人、伊藤彦右衛門の作庭で、変遷を示す史料も残されているとのことでした。最後に、現在は手島氏所有の加藤新一郎会員がメンテナンスを担当される庭園で、斉藤勝雄元相談役（1893～1987）設計の庭を見学しました。九十九里町出身、田村剛に認められ、小川治兵衛のもとで修業をしました。多数の作庭と著書を出版しました。1938年にはアメリカでの万国博で日本庭園を作庭し、日本庭園協会の機関紙へも多数執筆されました。

旧堀田正倫庭園

予定の見学を終えて、JR佐倉駅で解散しました。加藤新一郎常務理事、村田義雄千葉県支部長をはじめ、大勢の皆様方にお世話になりました。

脚注：五井野照秀氏による成田山史に基づく研究報告「成田山法談会「法談」、第61号、7－15（平成28・2・9）」を参考にさせて頂きました。

（副会長　鑑賞研究委員長）

集合写真

キューガーデンのガーデナー、覚照寺へ

平成31年3月17日～19日
横山 英悦

英国ロンドン南西部、世界遺産に登録されているキュー王立植物園があります。同園のスタッフで日本庭園を管理しているジェイクさんと植物育成係のフランチェスカさんが来日。宮城県支部で管理する覚照寺の庭で庭木剪定研修を行った。お二人は3月17日に来県し3日間、英国では珍しいマツやツバキ、刈り込み物などの剪定研修を行った。講師は菊地支部長、小泉副支部長が指導にあたり、ことこまかに庭木の手入れを伝授された。続いて4日目は東日本大震災の津波で被害を受けた石巻、気仙沼、陸前高田の被災地を訪れ、広域にわたる災害復旧の様子を視察された。気仙沼ではスギ苗の最新の育種技法を視察し、英国と日本の技術の違いなどの専門的な意見交換がなされた。また、気仙沼で宮城県支部会員の小山元氏が作庭した数ヶ所の住宅庭園を観賞、伝統的な日本建築と庭の佇まいを見ることができた。お二人は住まいを案内してくれた奥様からお茶を頂きながら庭を観賞できたことに大いに感激され「日本のお母さんありがとう」と話されていました。最終日は氷雨の降る世界遺産の中尊寺と毛越寺庭園に足を運び、東北の伝統文化と歴史を肌で体験された。「今回東北で沢山の庭を拝見して日本庭園のイメージが変わりました。日本庭園と聞くと、ほとんどのイギリス人は京都を思い浮かべますが、日本全国に日本庭園があることを知って欲しいです」と帰国後、ジェイクさんから宮城県支部に寄稿がありました。

この度、お二人が日本を訪れたのは公益財団法人東芝国際交流財団が世界各国で行っている社会貢献事業のひとつで、日本の文化や社会生活、伝統的な暮らしを体験することなど国際交流を図り、対日理解の促進を図ることを目的として活動されています。今回、日本庭園協会本部と宮城県支部が作庭した東日本大震災復興記念庭園と震災被災地の東北が研修地に選ばれ、日本庭園を通じて日本の文化と日常的な生活体験を通して国際交流ができたことは宮城県支部の誇りとなりました。

（評議員　宮城県支部）

東日本大震災復興記念庭園に来園したジェイクさん（左）とフランチェスカさん

剪定研修中のフランチェスカさん

英国王立植物園から来日したお二人

ひな壇飾りの前でにっこり

中尊寺金色堂前での一行

お知らせ

東京都支部・本部共催講座

日本庭園協会創立100年を超えて　－　交歓講座《人と自然を結ぶ文化の大地》

第3回
パネルディスカッション

『心の豊かさと幸福とは』

－便利さの中で何かを忘れてはいないか？－

解剖学者・東京大学名誉教授
養老孟司

×

モンベル会長兼CEO
辰野 勇

×

建築家・江戸東京博物館館長
藤森照信

養老孟司さんには「文明」という観点から。
辰野勇さんには「人と自然との関わり」から得られる幸福観を。
そして藤森照信さんには「心豊かな暮らし」を建築家としての観点でディスカッションをします。

令和新時代を迎えた今、一つの節を刻む意味で、平成時代を振り返り、これまでとは違った観点で現代を見つめ直します。
さらに洋の東西を問わず、心の豊かさと時代を超えても変わらない幸福とは何か？
この2大テーマをいかに捉え、現代人のニーズに応えるのが、時代に即した真の庭づくりであると私たちは確信しております。
そこでテーマを「心の豊かさと幸福とは」に定め、パネルディスカッションを試みることになりました。これまでの「モノづくり」と「庭づくり」だけではない「コトづくり」と「暮らしづくり」に焦点を絞ったディスカッションをさせていただきます。

2020年2月23日（日）
14:00～17:30（予定）

会場：**日経ホール**
東京都千代田区大手町 1-3-7

入場料：3,500円（予定）

文化財指定庭園保護協議会 総会、名古屋で開催される

令和元年5月30日～31日
加藤 精一

「第57回文化財指定庭園保護協議会（以下文庭協）総会」及び講演会・懇親会が5月30日（木）、現地見学会が翌31日（金）に「名古屋城二之丸庭園」を主催庭園として開催されました。

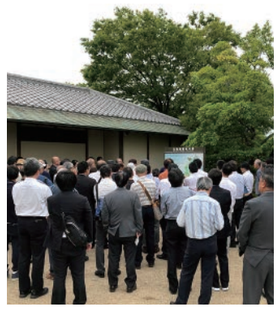
文庭協は、文化財保護法により、文化財に指定又は登録された庭園もしくは公園の所有者もしくは管理者並びにそれらが所在する地方公共団体の教育委員会相互間の密接な連絡を保ち、指定庭園の普及宣揚及び保護管理に万全を図ることを目的とする（同会会則 第二条より）。

総会で文庭協亀山章会長より、文化庁への要望書が発表されました。抜粋しますと、「文化財庭園を子孫に継承するために、生きた文化財としての庭園の価値とその特殊性を考慮し以下の3点を要望します。一、存立に欠かせない『手入れ』の財政上・技術上の支援の充実　一、保存修繕費補助金の拡充　一、文化財庭園に係る相続税・固定資産税等の税制優遇措置の確保を粘り強く要望し続ける」と発言されました。その後、公開講演会「文化財庭園保護の考え方」文化庁文化財第二課　主任文化財調査官　平澤毅氏、「名勝名古屋城二之丸庭園について」名城大学農学部生物環境科学科教授の丸山宏氏より、現状や問題点等について提示して頂きました。

翌日の見学会は、昨年復元公開された名古屋城本丸御殿、丸山先生から修復の説明のあと二之丸庭園を見学、次に尾張徳川家の邸宅跡の徳川園、平成3年に公開の白鳥庭園を見学し解散となりました。

（常務理事　総務委員長）

開会の挨拶をする亀山章会長


全国から集まった文化財庭園の管理者たち

編集委員コラム

木になる葉なし 13

鈴木 貴博

私達は普段の暮らしの中でさまざまな植物と関わっています。そしてそれぞれのシーンでは必ず特定の植物が使用されるため、その理由を知らずに使われる場合も多いと思われます。

例えば、新年には松竹梅や千両万両、節分の柊、雛祭りの桃、端午の節句には菖蒲と柏、月見の芒（すすき）、また神棚には榊、仏壇の樒（しきみ）といった植物はその代表と言えます。

七夕の時に、葉に文字を書いたという梶の木の葉

なぜ特定の樹種である必要があるのか？

この問題を探っていくとさまざまな植物を庭に植える意味を衣食住以外の角度から考察できると思われます。

科学技術や近代医療の無い時代、人々は、自然災害や疫病の蔓延という身近な脅威を乗り越えるため神仏の加護を求めたことが知られています。そして固有の能力を最大限取り込み生きる力としたとも考えられます。

時代が進んだ現代においては、世界的な気象変動による風水害、火山の噴火、地震といった自然災害、制御しきれない感染症の蔓延、社会構造の変化による生活上の不安など、今でも身近な脅威が存在しています。植物には人間と同じように樹種や個体別に個性があります。マツなどの針葉樹の尖った葉は神に好まれ、ヒイラギやカヤの葉は鬼を払い、モモには霊力があるとされ、カシワの木には葉守の神が宿ると言われています。かつてキササゲは雷避けと信じられていました。

観葉植物のオモトは運が開けると言われ今でも引っ越しの時に植える方が多くおられます。

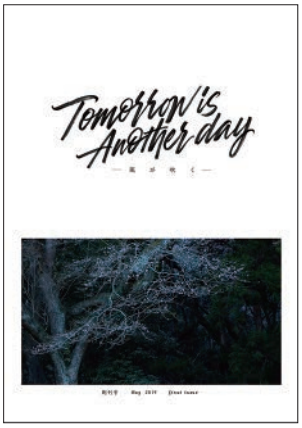
それぞれの植物が持つとされる固有の能力は現代科学の見地からすると非科学的で馬鹿げた話かもしれません。

ですが、今でも風習で残っているということは、何かしら意味があってのことと考えるならば今一度素直な気持ちで「植物の力」を信じてみるのも良いのではないでしょうか？

ここ数年の間に都市部ではシマトネリコや常緑のヤマボウシといった暑さに強い樹種が植えてあるのをよく見かけます。人気があるから、丈夫だから、値段が手頃だから等がその理由と思われますが、あと5年、10年後には無個性で均一化された樹種ばかりになってしまうのではないか、と個人的には危機感を抱いています。

地域の植物が多様化することは、多くの植物が共存し、そこに棲む昆虫や小動物、鳥類の層が増えることを意味します。目先の利益を追うこと無く、100年後の都市を夢見て少しずつでも多様な樹種を植えることで、動植物と共存する社会を、植物に助けられる暮らしを目指し実践することが、今求められているのではないでしょうか。

宮城県支部会報『風が吹く』の創刊について



『風が吹く』創刊号表紙

今年1月、日本庭園協会全国支部長協議会が千葉で開催され、各支部単位の広報活動の必要性が協議されました。当支部ではそれを受け、さっそく、広報部の創設と会報の編集委員会を立ち上げ、新元号となった5月に会報『風が吹く』を発行することとなりました。

そもそも当支部では2013年から始まった復興記念庭園築庭のコンセプトに「伝統的な日本庭園の技と心を、世界に向け情報の発信基地とする」と明記しており、5年間の膨大な活動資料を保管して準備を整えていました。配布先は会員、記念庭園築庭の支援者、各県支部、近隣の市・町と被災した東北沿岸の自治体、遠くは米国・英国の日本庭園関係団体へです。四季ごとに年4回発行、どこにもない会報作りを目指したいと思っています。

会報『風が吹く』編集委員長　横山 英悦